

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100324		
法人名	特定非営利活動法人 しあわせサービス		
事業所名	グループホームゆめの丘		
所在地	島根県松江市美保関町北浦624-1		
自己評価作成日	令和4年6月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290100324-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和4年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた立地条件を生かし、年間行事等で季節感や生活感を感じて頂けるよう支援しています。(春の桜の花見、夏場の地元での海開き参加、施設での地域の方を招いたそうめん流し、秋の芋煮会や、地域の保育園児を招いた敬老会、年末の蕎麦打ち、しめ縄作り) また、個々の興味・好み・体力により、玄関前でのお茶会、畑仕事、廊下でのウォーキング、調理の下ごしらえ・盛り付け、カラオケなど生活に楽しさと自信を感じながら過ごしていただいています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成23年に開設され10年を迎えたグループホームです。豊かな自然環境の中で行なわれている四季折々の行事は利用者のみならず、職員も一緒に楽しんでおられます。地域の方をお招きしたそうめん流しや保育園児との敬老会も行なわれ、地域の方々の理解も深まっています。食事はすべて手作りされ、季節の食材、畑で収穫した野菜を取り入れた、彩り豊かな内容になっており、おやつ作り、梅仕事等もみなさんで行なっておられます。職員のみなさんは利用者の尊厳を大切に、接遇に気をつけながら、日々のケアに努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、毎朝朝礼時に唱和し、職員全体で共有実践につなげている。特に尊厳については、虐待防止への研修・ミーティングで話し合いを行っている。	職員の定着率もよく、理念を意識した実践が行われています。毎日のミーティングにおいても気にかかる事はすぐに話し合い、情報共有に努められています。特に尊厳については虐待防止の研修も行ない共通理解が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、西保育所園児との交流、そうめん流しでの地区の小学生・保護者参加、美保関中学校の福祉体験の受け入れ等地域の方との交流を図っている。 コロナ過により、例年のように地域行事への参加が難しくなっているが、可能な限り継続出来る様心掛けている。	開設来、地域の方からの野菜の差し入れもあり、地域に中にあるグループホームとして理解・周知されています。地域の方々との交流もアフターコロナになれば従来通りの行事を実施される意向です。	保育園との交流もビデオレターのやり取り等も検討されても良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々を招いての交流事業に力を入れ、敬老会・そうめん流し・お茶会などを実施していたが、現在コロナ過の為、交流を自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催し、利用者の現況、行事報告などを行い、委員の意見等を施設の運営やサービスに生かしている。 コロナ過により、今年度も書面で開催した。利用者の現況・感染対策等を報告し、要望・意見等を伺い、サービスの向上に生かす様努めている。	二ヶ月に一度開催されており、現在はコロナ禍のため、書面開催で利用状況、行事予定、新型コロナ感染防止策、身体拘束適正化研修等の内容を報告され、意見・質問等については電話、FAXで伺われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を密にとり、情報共有を行い、協力関係を築くよう努めている。	運営推進会議には松江市介護保険課から参加があり、介護保険等の問い合わせは本庁にされ、協力関係を築けるよう努めておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、自由に入出入り出来るようにしている。施設内・外部研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化の指針を作成し、委員会を開催し職員にも周知が図られています。施設内外の研修も行われ職員も正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでおられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修において学び、虐待が見過ごされる事がないよう注意し防止に努めている。	高齢者虐待防止のための指針を今年度作成され、4月1日より施行されています。虐待防止委員会も身体拘束廃止委員会と同時に開催されています。また、内外の研修に参加し虐待防止に努めておられます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修において学び必要に応じて関係者と話し合い、相談に応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者様・家族様に十分に説明を行い、理解・納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議の意見・面会の際の要望等、運営に反映させている。介護計画更新時にも、改めて家族等の意見を聞くようにしている。	利用者の方々とは、日々の会話を通して要望を聴き取り、家族には面会の際等にご意見・要望を伺ったり、必要な用品を持って来て下さった際にも話されています。中々来所出来ない家族には、電話で利用者の様子を伝え、要望等を聞くようにしておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや個別の面談で集めた意見・要望を運営に反映させている。	管理者との距離も近く、日々のミーティングでの情報交換の場があり、それぞれが意見を出しやすい職場環境作りに努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の引き上げ、時間外労働の抑制等を図り、職場環境の改善に努めている。それぞれの家庭環境も考慮し、週休3日制を導入、定着率を高めている。	それぞれの職員の働きやすい風通しの良い職場を目指して、給与水準の引き上げや、時間外労働とならないよう取組まれています。処遇改善にも努めておられます。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常の業務を通じての介護技術の向上や一人ひとりの個性を見ながら、指導向上を図っている。パート職員は正社員への登用制度を設けている。また、資格取得について積極的に勧めている。	職員一人ひとりに応じた内外研修を案内する等、意欲的に資格取得を目指す職員の為には、勤務体制の配慮もされています。補助金制度も行われています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加し、職員同士が情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	丁寧に傾聴し、本人の希望を出来るだけ叶えられるように努めている。言いやすい関係になるよう特に初期は気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧に説明し、家族の希望を叶えられるよう努めている。特に初期には関係性に気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を見極め、それを踏まえて家族の要望を聞き、適切な支援となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームで共に生活をするという意識を忘れず、日常生活の中で暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にゆめゆめ通信を送付し、利用者様の日常の様子をお伝えしている。また、面会の際等に利用者様の現況をお伝えし、共に支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過により、馴染みの人との交流は控えさせて頂いているが、ガラス越しの面会、電話のやりとり等で関係が途切れない様支援している。外出機会は少ないが、花見等に出かけている。	コロナ禍という事もあり、感染防止の為、馴染みの方々との交流や馴染みの場所に出掛ける事は難しいですが、馴染みの方とは窓越しの面会や電話でのお話をさせています。馴染みの場所についても感染防止に気を付けながらの外出支援が行なわれています。	直接会えない場合も写真や画像を見ながら、昔話をして頂くようににされると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されている方がいないよう日々の生活を通じて、利用者様の動向に常に気を配り、利用者様同士の良好な関りとなるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて経過観察し支援している。相談があった場合には誠意をもって対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、思いや暮らし方の希望・以降の把握に努めている。困難な場合は、ご家族からの情報を得よう努めている。	それぞれの利用者から自分の思いを話してもらえよう、日々の関わりの中で話しをして頂ける様心掛けておられます。困難な場合には家族の方に情報提供して頂かれます。	これをしたいから、長生きをするための目標設定も検討していただきたいです。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のサービス内容・生活歴等について、ご本人様、ご家族様、事業所から情報を収集し、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で様子、状態等を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様・職員の意見を踏まえ、ご本人の意思を尊重し、その人らしい生活を送っていただくよう計画を作成している。	家族には電話で要望を伺い、本人には職員から話を聴き、これをしたいという意見があれば取り入れ、看護師・医師からの意見も聞き取り、ユニット職員全員のからの意見を踏まえ計画作成者により計画を作っておられます。評価見直しは半年・モニタリングは毎月行なわれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録内容を職員間で情報共有し、話し合いながら日常に介護や介護計画に反映させている。	日々の様子や利用者の変化等、記録物は手書きで行われ、職員間で、情報共有が行われています。共有した結果についてはモニタリング等で話し合い、評価・見直しに活かされています。	計画作成者が見てもらいたい観点を伝え、それを基に記録作成をされると良いと思います。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診・救急搬送時の付き添い等、本人や家族の状況・要望に応じ、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過により、地域の交流の外出は控えている。少人数で本人の馴染みの場所や景色の綺麗な場所等へのドライブ等を実施している。また、少人数でのボランティアは受け入れており、玄関の飾り付け等毎月来ていただき、皆さんに楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、事業所と連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者・家族が望むかかりつけ医となっております。大半の方が協力医をかかりつけ医とされており、ホームと連役を取りながら往診に来て頂いています。別の病院への受診は現在は職員が連れて行かれています。歯科についても、本人のかかりつけ医を受診されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、情報を常に把握し、早期の異常発見に努め、看護師に相談・指示を仰ぎ、個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療機関へ情報を提供し、安心して治療が受けられるよう支援している。病院関係者とも連絡を密にし、よりよいケアにつながるよう努めている。	地域連携室と連絡を取り合い、入退院カンファレンスも行なわれており、より良いケアができるよう努めておられます。入院時、利用者になるべく負担とならないよう医療機関としっかり情報交換をされます。また退院時にもホームで気を付けるべきことについて話し合われます。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から重度化について家族様と話し合い、今後の方針を一緒に考えている。	利用開始時に、利用者・家族に重度化・終末期の対応について説明し、同意を得ておられます。実際に終末期を迎えた場合には、かかりつけ医の説明の基、再度家族の意見を確認し対応をされています。看取り対応までは行なわれていませんが、できる限りの対応はされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署の指導の下、救急救命講習を受講し、緊急時の対応について学び実践力を身に付けている。現在は、コロナ過のため講習は自粛している。全員が集まった心肺蘇生講習が出来ないため、消防所指導のもと、『心肺蘇生法』『異物除去法』等を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害・地震等の発生時の避難訓練を通じて、職員の危機管理意識の向上を図っている。	災害時における職員体制計画、避難計画も作成され、自然災害・火災の避難訓練も定期的を実施されています。	国からの要請に従い、自然災害・感染症のBCP計画の早期作成を願います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。施設内で接遇の研修もやっている。	身体拘束・虐待防止を念頭に置きながら、接遇に努め、気になる声掛けがあれば職員同士で注意をされています。各個室にトイレも設置されており、排泄の声掛けもプライバシーが守られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、ご本人の希望や思いを聞き自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を尊重し、その人らしい生活が送れる様に希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃より、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。毛染めやお化粧等、ご本人の希望に添うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ・テーブル拭きやお盆拭き等、一人ひとりの力を生かしながら、職員と共に準備・片付けを行い、楽しみながら食事出来るよう配慮している。	食事はすべてグループホーム内で作られ、季節に応じた食材を使い豊かな食事内容になっています。畑もあり、利用者と一緒に収穫した野菜も献立に取り入れられたり、みなさんで筍の下処理、梅仕事もされます。行事食、おやつ作りもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は、管理栄養士により管理、季節の食材を取り入れながら、バランスのとれた献立を提供している。食事量・水分量に関しては、日々の記録にて把握し、必要な食事と水分量が確保できるよう努めている。また、食事形態等、利用者一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助を行い、一人ひとりの状態に合わせたケアを行っている。	自分から食後の歯磨きをされる方もありますが、仕上げ磨きや入れ歯の洗浄等、それぞれの方に合わせた口腔ケアが毎食後に行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中・夜間ともその方に合った声掛けやトイレ案内等、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、必要な声掛け、誘導等が行なわれており、自立や現状維持に向けた審が行なわれており、用品の数が減らせるように心掛けておられます。夜間就寝時に声掛けをされる方もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含まれる食材の利用、体操・散歩等身体を動かす機会を作り、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴していただけるよう支援している。ご本人の体調や気分によって時間をずらしたり、日にちを変更する等し、気持ち良く入浴して頂けるよう支援している。	基本的には入浴回数は週2回です。座位保持が難しい方はシャワー浴で対応されています。入浴拒否の方もありますが、声掛けの工夫をしながら無理強いはいはしないよう促されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに応じて休んで頂いている。日中はなるべくレクリエーション・体操等で身体を動かす機会を作り、夜間良眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は個人ファイルに閉じ情報を共有し服薬の支援を行っている。症状の観察にも努め変化等あれば主治医へ報告・相談している。	薬が変更になった際には医療用ノートに書き、職員に注意を促しておられます。また、看護師も変化等がないか様子を見守っています。返答があれば、かかりつけ医に連絡・相談が行なわれています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・片付け、洗濯物の整理等、それぞれに日常の生活の中で役割を持ってもらい、張り合いのある日々を支援している。また、季節の行事やレクリエーションを取り入れ、気分転換が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過により、外出は控えさせて頂いているが、天気のいい日には施設周辺の散歩、畑仕事や収穫、玄関先でのお茶会等日常的に戸外へ出掛けるよう支援している。	コロナ禍という事もあり、中々自由に外出が出来ませんが、畑での野菜・ブルーベリーの収穫やドライブを兼ねたお花見、玄関先でひなたぼっこをしながらお茶を飲まれたり、できる範囲で戸外で過ごせるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物の際はご自分で支払いが出来るよう支援している。 現在コロナ過の為、外出・買い物は現状を見ながら自粛している。少額の個人金をご自分で管理している利用者様もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ過により、面会を控えさせて頂いている中、ご家族様などに自ら電話されたり、手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間・居室は清潔を保ち、季節に応じた花や飾りつけ等生活感や季節感を取り入れ、またホールには加湿空気清浄機を置き、感染対策にも努め、心地よいと思ってくれるような空間づくりに努めている。	玄関へのアプローチに四季の花が咲き、メダカの水槽が設置され、玄関には落ち着きのある季節に応じた設えが施されています。共有スペースは清潔に保たれ、ホールには加湿空気清浄機が設置され、換気、温度管理にも気をつけ、利用者が快適に過ごせる空間作りが行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・談話室で利用者様同士で過ごし、親しい方同士では居室へ相互訪問もされている。又、玄関先や庭にベンチを置き、思い思いにくつろげる環境作りにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や、好みの物を持参して頂き、ご本人が落ち着いて過ごされるよう支援している。	利用者の動きやすい動線を考え、ベッドの位置も変え、一人ひとりそれぞれの利用者にとって居心地のよい居室作りを目指しておられます。また利用者本人が落ち着いて過ごせるよう馴染みの物や使い慣れた物を持ち込んで頂いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋建てで、施設内部の手すりにつかまりながら自立歩行を行いやすくしている。居室のトイレは夜間の安全自立に役立つ。また、居室のドアに名前を表札にし、ご自分の部屋が分かりやすいようにしている。		